

伝統芸能の詩吟を絶やさない、詩吟を生徒に紹介と体験を通して交流を図る、詩吟を通して地域を明るく元気に

光峰流吟道柳井吟詠会屋代教室
会長 吉永 光明

1 はじめに

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後、以前のような活動ができるようになりつつある。

しかし、老人ホーム訪問、児童クラブでのちびっ子詩吟教室の再開までには、いたってない。

2 活動の概要

(1) 活動計画と実績

	年度当初の活動計画	実 績
教室、大会関係	<ul style="list-style-type: none">・ 月2回の詩吟教室・ 外部講師による指導・ 各種大会参加	<ul style="list-style-type: none">・ 通年実施・ 1回実施・ 県大会、柳井地域大会参加・ 広島県新春短歌会参加・ 吟初め会参加・ 他流派との交流会企画実施
学校関係	<ul style="list-style-type: none">・ 大島中学校詩吟教室	<ul style="list-style-type: none">・ 大島中学校詩吟教室(中止)
福祉施設等関係	<ul style="list-style-type: none">・ ほのぼの苑訪問 6回・ 児童クラブ 夏休み詩吟教室	<ul style="list-style-type: none">・ ほのぼの苑訪問(中止)・ 児童クラブ 夏休み詩吟教室(中止)
地域行事関係	<ul style="list-style-type: none">・ 敬老会等出演・ 沖浦子ども会と吟詠大会参加・ 寺や神社の芸能大会参加2回	<ul style="list-style-type: none">・ 地区敬老会に他団体と合同で出演・ 地区ふれあいの集いに、三蒲小学校及び他団体と合同出演・ 月性の生誕を祝うイベントに出演・ うずしおフェスタ参加確定(3月)・ 沖浦子ども会と吟詠大会参加(中止)

(2) 活動事例

例1 三蒲小学校、他の詩吟団体と合同で、「ふれあいの集い」に参加

ふれあいの集いが数年ぶりに再開となり、他団体を誘って三蒲小学校と合同で出演した。児童が唱歌「ふるさと」合唱し、歌の1番と3番の間に月性の「将に東遊せんとして壁に題す」を合吟で詠った。

集いに向けたリハーサルで、学校・児童と距離が縮まり交流を図ることができた。



三蒲小学校、他団体と合同で出演

例2 他の詩吟団体と合同で「敬老会」出演、来年は更に拡大

他の団体と合同で敬老会に出演し、名槍日本号を合吟で詠った。

また、敬老会に出演していた団体と意気投合し、来年度は漢詩「青葉の笛」を篠笛の独奏と吟詠で出演する予定である。詩吟団体との交流だけでなく伝統楽器の団体とも交流を広げ、地域を盛り上げていきたい。

例3 町内詩吟団体との交流と活動の活性化

町内に幾つかの詩吟団体があるが、どれも5人程度の小さな団体である。今年度初めて、他の団体に呼びかけて、吟詠の技術向上と交流を兼ねた合同研修会を行った。

その後、別の団体から一緒にやりたいとの話があり、来年度は更に交流の拡大を図りたい。



交流会

例4 「月性生誕祭」に出演

柳井市遠崎の妙円寺で行われた幕末の勤皇僧月性の生誕祭に出演し、月性の漢詩を吟詠した。機会があれば町外のイベントに出演して、研鑽と地域の活性化に寄与したい。



月性ゆかりの妙円寺で吟詠

例5 各種大会に参加して、研鑽と交流

吟詠コンクール山口県大会、柳井地区吟剣詩舞道大会、町うずしおフェスタ音楽祭、他県の吟詠大会、音楽会社の吟詠コンクールに参加し、研鑽と交流を図った。



広島県で開催された新春短歌朗詠のつどい

3 成果と課題

今年度は老人ホーム訪問と中学校詩吟教室は実施できなかったが、その他の活動はコロナウイルス感染禍以前のように実施できた。新たな取り組みとして、他の詩吟団体と合同で町内行事に出演したり、他の団体と合同研修を行い研鑽と交流を図った。

課題は、会員の減少により活動の低下と組織の維持が難しいことである。会員の減少は活動費の減少に直結し支障をきたしているが、貴会からの支援により乗り越えることができた。

今後も、微力ながら詩吟の伝承を続け、明るい地域づくりに少しでも役立っていきたい。